

インデックスプランジャー比較表

	 引き抜き式	 回転レバー式	 レバー式（弊社品）
操作方法	ピンの操作をする場合は、上部のノブを上引っ張り、ピンを抜き取る。抜き取った状態を保持するにはノブを回し本体に有する溝から脱し本体上面に乗せ保持する。	ピンの操作をする場合は、レバーを上少し持ち上げながら回し、レバーが本体坂部のカムを登る事でピンを抜き取る。ピンの上下の状態を保持する為、本体カム部にレバー板が入り込む溝が有る。また、別形態としてネジ部にカム部を有している形態もある。	ピンの操作をする場合は、レバーを上方に90°動かせばピンは完全に本体内部に収納される。この状態を安定的に保持するにはレバーを後90°回転しレバー初期の反対側まで回転させる事により保持する。
操作性	ピンを抜く場合、引っ張ると言う動作をする為、機器が軽量な場合は不安定になる場合がある。また、元々ノブが大きく出ているがピンを引き抜くと、さらに大きくノブが出てしまい非常に邪魔になり作業に影響が出る場合がある。	ピンを引き抜くにはレバーを180°回転させなくてはならず動作が大きくなる。また、一見した所ではピンが引き抜かれているか分かり辛い。これは、引き抜き式においても同様な事が言える。	ピンを引き抜くにはレバーを上90°回転させ、状態保持にはレバーを反対方向まで回転させるという分かり易く、操作しやすい構造で、ピンが引き抜かれているかいないかを一見すれば分かる見た目である。
安全性	ピンが引き抜かれていない状態では安定しているが、ピンだけ引き抜かれを維持している場合、もし作業中に不意に触れてしまった時、ピンが落ちる可能性がある。	ピンが入っている時、引き抜かれている場合共に回転レバーはカム面に付けられた溝に入り込んでいるが、回転レバーに不意にやや強い力が加わった場合、溝からレバーが外れ、ピンが動いて思わぬ事故につながる。	ピンが入っている時、レバー先端に不意に押されてもレバー下部の凸部の働きでピンが引き抜かれる事が無く、レバーを反対方向まで回した保持状態でもレバー上部の凹部の働きでピンが動く事が無く安全である。
独自性	構造が簡単で、機械要素部品メーカー共に変わりが余り無い。	構造が簡単で、機械要素部品メーカー共に変わりが余り無い。	一部の福祉機器メーカーが海外製の安価な製品を用いているが、弊社品は安全面を構造変更で強化しており特許も取得している。
強度	バリエーションで本体・ピンの材質などが違い、高額な物は強度が高い物もあるが、ノブ部はナイロン製が多く、劣化には弱い傾向がある。	バリエーションで本体・ピンの材質などが違い、高額な物は強度が高い物もあるが、回転レバーがナイロン製の物は劣化に弱い傾向がある。	本体ネジ部への肉厚を充分に取っており、レバー材質を亜鉛ダイキャストを使用しており、強度には配慮している。
価格	全体的に安価傾向には有るが、バリエーションで本体・ピンの材質などが違い高価な物もある。	全体的に高価傾向には有るが、バリエーションで本体構造の違い・ピンの材質などが違い中間価格帯な物もある。	インデックスプランジャー全体的には中間価格帯に位置すると思われる。